

学校だより

令和6年11月1日(金) 第7号

心の豊かな生徒・自ら学ぶ生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻3750番地

電話 048-756-1117

学校 Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>



コミュニティ・スクールとしての次の一步

校長 細井博幸

都内では、統計開始以来最も遅い真夏日も記録した10月も終わり、いよいよ11月。令和6年も残すところ2か月となりました。日中の暑さも和らいだとはいえ、半袖でも過ごせそうな日もありますが、正門前のケヤキは所々に葉が色付き、日暮れの早さを感じる季節となりました。昨年の今頃は、インフルエンザの感染拡大により、合唱祭も急遽オンライン併用での開催、学級閉鎖のクラスは後日合唱するなどの対応が生じましたが、今年は全国的にも感染拡大の波は来ておらず、明日の合唱祭も、久々に体育館に全校生徒が集まって開催できそうです。午後は13:30~15:30に本校を会場として、西原☆フェスティバル2024が開催されます。どなたでも参加できますので、多くの地域の皆さんと学校が直接触れ合える貴重な機会となればと願っております。

さて、5月の学校だよりでも取り上げました学校運営協議会の第2回目の会議が10月18日に開催されました。本校は西原小学校と合同で学校運営協議会を開催していますが、第1回は各学校にてグループ開催としたため、一同に会するのは本年度初となりました。昨年度の本校の課題として、学校評価、保護者対象アンケート「学校は保護者や地域の人々との連携を図って教育活動を進めている。」に対する肯定的な回答の割合が、85.4%から78.4%へと7%低下したことを受け、体育祭の保護者席大幅拡大、地域におけるボランティア活動の促進などの取組を進めてまいりましたが、「地域住民や保護者等が学校運営に参画し、連携・協働して学校運営に直接関わる仕組み」としての学校運営協議会の役割はとても大きなものがあると考えております。それぞれの学校でグループ開催となった第1回学校運営協議会においても、西原小・中学校の連携が大きな話題として熟議（話し合い）が行われ、第2回においてもさらに熟議を深めることができました。



熟議の中心となったのが、2月に西原小で開催されている「地域・子ども交流会（西原子どもフェス）」と明日西原中で開催される「西原☆フェスティバル」の実施方法についてです。コロナ前は、一つの西原☆フェスティバルとして2週に渡って西原小・中で開催されていましたが、コロナ禍を経て、小・中それぞれがそれぞれに再開している状況です。無論、熟議の中でも単純に同日開催できない事情なども取り上げられましたが、一小一中9年間で義務教育課程を過ごせる西原小・中、そして地域とのつながりを深められるイベントとしての在り方を学校運営協議会の中で検討していくことには、大きな意義があると委員の皆さんも感じてくれたようです。昨年赴任した私にとって5回目の学校運営協議会となりましたが、西原小と西原中が同じ方向を向き、地域との連携を模索しながら話し合う大きな一歩を踏み出したように感じました。この話題は、来年すぐに実現させるということではなく、目的、メリット、デメリット等の熟議を繰り返しながら、数年後の開催を目指すことになるでしょう。コミュニティ・スクール3年目。西原小・中・地域との連携の核となる新イベントの誕生に期待が高まります。